

## 大台ヶ原における自然再生と新しい利用のあり方に関する懇談会 概要

### (1) 目的

大台ヶ原の自然の現状と保全再生の取組み、並びに今後の新しい利用のあり方について、地域在住の方々を含む幅広い方々と意見交換を行うことにより、地域の方々等の意見等を聞き、今後の利用対策についての議論を深めるとともに、地域の方々等との合意形成に向け、認識の共有化を図ることを目的とする。

なお、自由な発言を促し、質の高い前向きな議論が展開されるよう、少人数のグループにわかれてディスカッションする場を設けることとした。

### (2) 開催要領

- ①日時：平成16年2月8日（日）13：00～16：00
- ②場所：上北山村振興センター 大集会室
- ③次第

#### 開会の挨拶

#### 講演【大台ヶ原の価値と自然環境の現状について】

『大台ヶ原の価値をひもとく』西田 正憲（奈良県立大学地域創造学部教授）（参考資料 1-1）

『大台ヶ原の自然環境の現状分析』横田 岳人（龍谷大学理工学部講師）（参考資料 1-2）

#### 説明【自然再生の取組みと大台ヶ原における新しい利用について】

『自然再生の取組みについて』環境省（参考資料 1-3）

『大台ヶ原における新しい利用のあり方について』環境省（参考資料 1-4）

#### グループディスカッション【<新しい利用のあり方に向けて>】（参考資料 1-5）

#### 閉会の挨拶

### ④出席状況

地元住民、登山利用者、関係機関等 約 60 人

### (3) グループディスカッションにて提示された意見の概要

#### ■『マイカー規制による利用適正化』について

- ・「賛成」あるいは「やむを得ない」という意見が多数を占めた。
- ・しかし、具体的な規制内容や、シャトルバスのルート、地域振興との関わりについては検討すべき項目が多く挙げられた。

#### ■『より良好な森林地域の保全の強化』について

- ・近年の西大台地区における利用者の増加に対して、何らかの対策が必要であるという意見があった。
- ・利用調整地区の設定には十分なデータの蓄積が不可欠との指摘があった。

#### ■『総合的な利用メニューの充実』について

- ・[キャンプ指定地の設定]については、利用者マナー啓発等管理体制の充実が前提であるとの意見があった。
- ・[自然解説・自然体験プログラムの充実]については、「冬の大台ヶ原の魅力伝えるガイドツアーやチャレンジハイクの企画」、「エコツアーのガイドは地域の人で」、「村で認定ガイドツアーを企画し、＜学習の場＞として大台ヶ原を位置付ける」などの多様な提案がなされた。
- ・[ビジターセンターの充実]については、すぐに取り組むべきと指摘された。

#### ■今後の地元と大台ヶ原の関わり方について

- ・これまでは地元でありながら大台ヶ原への知識、関心が少なかったが、「これから勉強が必要」、「地域振興と自然再生がリンクすることを地元でも考える」、「大台ヶ原は地元にとっての観光資源であるから、利用の質を高めよう」、「地域経済に活力を与えるプログラムを検討しよう」など、今後の大台ヶ原との新しい関わり方への提案が出された。
- ・また、大台ヶ原の自然再生は長い目で考えるべきであると共に、これからは地元が参加していくべきであるということも再確認された。

(4) 各グループで提示された意見

第1班 進行：田村委員

### マイカー規制

年間20日間でもよいからすぐに実施すべき

自然を守るために、規制はやむをえないと思う

賛成

年間20日間で自然の保護になるのか。その根拠となるデータはあるのか

規制日以外に来訪者があれば、結局、自然に悪影響があるのでは

経費のかかる低公害バス導入は本当に必要か。

規制内容への懸念

制限が本当に必要かどうか。もう少し検討が必要ではないか

自然に囲まれたドライブウェイを通行できなくなることを懸念

再検討

### キャンプ指定地

懸念

マナーの悪い人が入山してくることが心配

期待

星の観測などの利用ができれば素晴らしい

### 利用調整地区

最近ではツアーなど利用者が多く、何らかの対策が必要である

西大台は利用者が少ないが、利用調整は必要なのか

規制の必要性の根拠となるデータはあるのか

必要

再検討

### 総合的な利用メニュー案

利用者優先になりすぎではないか

すぐにもビジターセンター機能の充実を

大台ヶ原の自然の現状をより理解してもらえようような利用のあり方がよいと思う

## マイカー規制

マイカー規制は実施すべき

運営体制・駐車場場所が問題である

賛成

温泉など地元への経済効果のために駐車場を簡にすると登山者には不都合

大台ヶ原では“登山”より“ドライブ”感覚の人が多いため、ドライブが出来なくなると来訪者が減るのではないか

マイカー規制、駐車場の位置等には、地元の意見把握が重要

規制内容への懸念

マイカー規制に固執しすぎでは。観光を第1としているのでは

交通渋滞の緩和を目的とすべき。マイカー規制は手段の一つにすぎない

再検討

## 総合的な利用メニュー案

入山者のマナー・意識向上

ガイドの依頼、コースの選定などによって、自由な登山活動が制限されるのでは

入山前の学習・情報入手施設として乗換え駐車場にビジターセンターを新設

森林整備隊などの組織づくりが必要

## 大台ヶ原の位置付け

大台ヶ原の利用のあり方は10年くらいのスパンで考えるべき

シカの食害や利用者マナーに関することも重要

原生的な自然を求め  
のならば  
・質の良い観光客  
・数の調整（入山規制）

### マイカー規制

シャトルバスの本数があるのならマイカー規制の方がいい

温泉に宿泊して長期滞在、という利用が可能になるのではないかな

混雑期は路駐が多く利用者が上に行きたがらないのが問題である

シャトルバスの運行により、温泉などにも寄れるようになる

賛成

利用者が減少するのではないかな

利用者の減少によって地元は大きなダメージを受ける

シャトルバスは交通手段として便が悪いのではないかな

シャトルバスがどのくらい来訪者のニーズに応えられるのか

20日間程度の規制で利用者は増えるのか、減るのか？

規制内容への懸念

利用者のマナーがよければ規制は要らない

規制ではなく、駐車場、アクセスルート等を工夫する(上北山村を通るルートを使うなど)

再検討

### 上北山村の魅力

年間30万の観光客は、ほとんど上北山村には来ない

ドライブウェイは手軽に來訪できるため、日帰り利用が多いなど上北山村へ立ち寄らない

現状

自然・文化・歴史の魅力発信はできているか

上北山村に人をひきつける「何か」があれば...

大台ヶ原を媒体として上北山村をどう知ってもらおうかを考えよう

変わっていきこう！

下北山村は  
・人口が減らない  
・空家への転入者など活力がある

村の散策ツアー、ショートステイ、空家の活用などを検討してはどうか

冬の大台ヶ原の魅力を伝えるガイドツアーなどの開催もよい

アイデア

### 大台ヶ原の価値

「観光資源」と「貴重な自然資源」の両立は難しい

本当の価値は外から見ないと分からない

開発途上⇒成熟段階 視点を換えることが必要

### 地元と大台との関わり

大台ヶ原は上北山村の中の大台ヶ原である

森林組合で大台ヶ原の再生の仕事を請け負っている

地元との関わり

ゴミ、利用マナー問題など、大台ヶ原は上北山村にとっては問題が多い

地元住民は冷ややかな態度で大台ヶ原を見てきた

上北山村に寄らずに下北山村に行ってしまう

ドライブウェイが出来てから地元住民と観光客・登山者とのふれあいが少ない。

上北山村の人たちの関心が少ない

地元との遊離

## マイカー規制

マイカー規制、P&R は環境保全のために必要なことの1つ

車を停めて温泉に入ることによって地元への経済効果期待

賛成

“規制”というよりは“入り方の工夫”として考えてはどうか

上高地など、100万人以上の人が来るところとはキャバが違う  
→慎重に検討

20日間は中途半端（規制日以外の来訪者増加による環境影響は？）⇒やるなら長期で

観光客の減少が心配

地形的に村内に駐車場確保が困難⇒隣村になるのでは

規制内容への懸念

6

## 現状

### 利用の現状

登山者だけでなく、熊野の帰りにふらっと立ち寄る人も考慮。

最近は日帰り、食事も持ち込みが多く、経済効果なし

ボランティアによるゴミの収集

ドライブウェイ、木道の整備で、容易に利用されるようになった

### 環境の変化

シカが近くで見られるようになった

変化の原因を科学的に明らかにするべき

## 地元の大台ヶ原に対する意識

地元が大台ヶ原の存在を認識したのは最近のこと。これから勉強必要

今までの自然再生事業には地元の声が入っていない

地元にとって大台ヶ原は観光資源→利用の質を高めよう！

再生プログラムに地元が参加すべき

地域振興と自然再生がリンクすることを地元でも考える

利用人数が減るとしても、質の高い利用、経済効果の大きい利用を

地元がどうやって生きていくか

今日の懇談会は1歩前進

## 今後

### アイデア

エコツアーガイドは、外の人ではなく、地域の人に教わるようなものに

村で認定ガイドツアーを展開 “学習の場としての大台”の位置付け

トイレ利用料、食事、ガイド料等でお金の落ちるプログラム

“チャレンジハイク”等の企画

### 若者の不安

登山者だけでなく、一般の人でも安心して来訪する環境整備を

ドライブウェイの安全性強化（雨水の調査など）

(5) まとめ (長嶋座長)

□大台ヶ原の価値の再認識について

- ・ 世界的な目で見ても温帯多雨林として重要である。
- ・ 明治・大正期から日本で最も重要な地域の一つである。
- ・ 地域、国民、国家にとって、今後は地球環境にとっても重要である。

□大台ヶ原の現状認識と今後の取組みについて

- ・ 地元における、近年の環境変化についての情報、専門家の知見との関わりが不足している。
- ・ 地元外の人、専門家、行政などと地元が力を合わせて自然再生に取り組む仕組みが必要である。
- ・ 自然再生検討会の各部会への地元の参加が推進されるべきである。

□グループディスカッションについて

- ・ 短時間ではあったが、ようやく地元で開催されたことに意義があった。
- ・ 今後も継続的に開催していくべきである。
- ・ 今後はいろいろな当事者の調整結果を提供できる場にしていくことが望ましい。

□今後の取組みについて

- ・ 「未来世代を大事にしていく」という視点が大切である。
- ・ 若者の意見を取り入れ、先輩の経験を活かし、地域の女性も関わり、小中学生が夢を抱けるような形態が望ましい。
- ・ 『ワイズユース』(“賢い利用”よりむしろ“賢い共生”)の実現を目指す。
- ・ 『環境ガバナンス』(環境に対して地元の人が主人公でありながら、行政、専門家、NPOなどと共通のテーブルを持って取り組むこと)の実現を目指す。
- ・ 高い理想を実現していくために、地元が足場を固めることが重要である。